

# 令和6年度 八幡浜市総合教育会議議事録

## 1 日時

令和6年11月18日（月） 13:30～14:40

## 2 場所

八幡浜市役所八幡浜庁舎3階庁議室

## 3 出席者

### (1) 構成員

大城一郎市長、井上靖教育長、泉俊也教育委員、佐々木広光教育委員、  
成瀬いづみ教育委員、國安健太教育委員

### (2) 構成員以外の出席者

副市長、総務企画部長、総務課長、総務課長補佐、  
教育指導主幹、学校教育課長、生涯学習課長、学校教育課長補佐、生涯学習課係長

## 4 市長あいさつ

本会議は、私と教育委員会との情報交換、連携強化の場として、定期的を開催しているもの。

本日の会議では、次第にあるとおり「学校再編整備第二次実施計画の進捗状況について」等、2つの議題を設けている。

スムーズな進行により有意義な会としたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

## 5 議事

### (1) 学校再編整備第二次実施計画の進捗状況について

#### 【事務局】説明

○学校再編整備第二次実施計画（後期計画）

小中学校の統廃合は、「八幡浜市学校再編整備第二次実施計画」に基づき実施している。中学校は、令和6年3月29日に統合合意書の調印式を行い、来年4月1日に新設校「八幡浜中学校」としてスタートする。

小学校は、令和8年4月1日の再編に向けて地域説明会、地区協議会を開催している。

7月に川上、双岩、神山小学校校区を対象とした地域説明会を開催し、10月には地区協議会を開催した。主な質問と意見は市ホームページで公開している。今後のスケジュールとして、1月に関係者による統合準備委員会（仮称）、作業部会を設置し、学校再編に向けた具体的な協議や準備を行うとともに、3月末に「統合合意書」を交わす予定。来年度、統合準備委員会は継続し、閉校準備委員会を各学校で立ち上げ、来年度末に閉校式、令和8年4月に新設校「八幡浜南小学校（仮称）」としてスタートする予定。

学校再編整備第二次実施計画が予定通り再編が進んだ場合、小学校が10校、中学校が2校になる。

### ○学校再編整備第三次実施計画

令和9年度には学校再編整備第三次実施計画を策定する。

第三次実施計画の基本的考えは、中学校は2校で完了。小学校10校をどのように再編するか。将来的に児童数の減少が見込まれる中、各エリアの軸となる学校に再編する必要がある。

また、真穴小学校と国の重要文化財に指定されている日土小学校をどのように位置づけるかを、学校再編整備検討委員会で協議を重ね、第三次実施計画を策定することになる。

### 【佐々木委員】

第三次実施計画の説明の中で、真穴小学校と日土小学校をどのように位置づけるかとあるが、どういう意味か。

### 【事務局】

第二次実施計画ではこの2校は含まれていなかったが、児童数もどんどん減ってきているので第三次実施計画では、議題として取り上げ検討していかなければならないという意味である。

### 【市長】

この7月に島根県益田市に出張した際に真砂小学校を視察してきた。ここは児童数が8人で8億円をかけて新校舎を建設している。小学校のほかに保育所、公民館、診療所を一体化した建物で、校庭の隅には消防倉庫もある。その地域に小学校を残そうといった形で地域が望んで計画して、規則などもすり合わせをして全部を融合した形で施設が作られている。

児童数だけで杓子定規に統合しようということではないと思うが、そういったところでもご意見をお願いしたい。

また、日土小学校については国の重要文化財の指定を受けている。重要文化財だから小学校を続けなければならないといったようなことはない。小学校が閉校しても、重要文化財であることには変わらないということもあるし、これも日土の人の思いを含めた形で学校の再編を考えればいいのかというふう思うところである。

### 【國安委員】

私は川之石小学校出身で学年一クラスだった。中学校へ上がった時に二クラスある宮内小学校と一緒にあった。個人的には勉強のレベルや運動のレベルが劣っているように感じた。

地域の方々の意見に耳を傾けることはすごく重要なことではあるが、親としてはある程度の規模の小学校に入れてあげたいという気持ちも正直ある。一番に考えるべきは子供たち、そして、その保護者の意見に耳を傾けることが大事だと個人的には思う。

### 【泉委員】

それらを残すためには地域がどれだけ盛り上がるか。川上小学校が統合に強く反対されたというのは、お神楽などの行事があって地域が盛り上がっているから小学校がなくなったら寂しいという地域の人たちがいた。一番は先ほど言われた子供たちと保護者ではあるが、残

すのであれば、それにプラス地域の人たちがここをぜひ残したいというしっかりした気持ちを持ってほしいと思う。

#### 【佐々木委員】

どの地域も、地元のこだわりっていうのは、子供たちよりも親とかおじいちゃんやおばあちゃんがすごくあるのではないかと思う。私は八幡浜市に帰ってきた当初から、子供たちは小人数でやるよりも、ある程度の規模の中で、運動にしろ勉強にしろ、ある程度の競争の中で過ごす方がいいのではないかと思っている。その地域の子が生まれて死ぬまでその地域で過ごすのであれば、地域の中で立派な施設を作って生活していくのもいいかもしれないが、どこかの段階でもっと大きな社会の中に入ったときに私は困るような気がする。

#### 【成瀬委員】

真穴小学校については、やはり車で行ってもかなりの距離があるなという感想はある。そこからまた移動して学校に通うというのも、真穴に帰ってみかん農家をしたいという若い人にとって、小学校が地元になんていうのが引かかるとやっぱり選択も弱くなるという思いもある。また、基幹産業のみかん農家が、活発に生活とともに子育てもできるという地域を作り上げていくのも一つの特徴ある八幡浜市になるのではないかと思う。

日土小学校については、重要文化財に指定されているが、創意工夫に溢れた学校で子供たちが学んでいくというのは将来にとっても大変有意義なものだと思う。日土小学校だけではなかなかこの先運営は難しいのではないかと思うので、里親みたいな受け入れ体制があったら、全国からそういう学校・地域で学んでみたいという児童も出てくるのではないかという希望はある。しかし、受け入れ体制の問題とかそういう難しい面も出てくるのかなと思う。先ほど市長が言われたように、将来的には学校だけにこだわるのではなくて、建物を生かした、子供たちに対して、八幡浜市民に対して利用できるような方向性を持っていてもいいのかなという気もする。いずれにしても、この環境の中での教育というのは特色があるのではないかと思う。

#### 【市長】

私が一つ気になることは、今まで小学校区を中心に行事とかいろんな物事が進んでいたということもあって、我々も昔はPTAとして近所の子供たちの名前や学年がある程度分かっていたが、今は中学校がなくなり、今度小学校がなくなると近所の子の名前と学年が全然分からない。やはり、そういう子供たちと地域の人たちの繋がりが希薄になっていくということが、地域力を落としていくことに繋がっていくと思う。ということは、災害などのいざというときに地域力が低いと助かる命が助からないというようなことになってくるので、学校の統廃合とは別に考えて、そういったことをまた別の意味で作っていかなくてはならない。それも含めた上で統廃合もしっかり考えていかなければならないということを感じた。

#### 【教育長】

真穴小と日土小をこの第二次実施計画の中で残したというのは、重要文化財という面もあるし、真穴のみかん産地を、距離的なことも含め残していこうというようなことでやってきた。ただ、川上や双岩の人からしたら歴史は同じぐらいあるし、複式学級の状況もほぼ変わ

らない。何が違うのかということもあるので、今後その2校を残していくかどうかについてはとても難しい部分がある。一方真穴のある保護者から、今回川上・双岩・神山が一緒になるけど、うちはいつになるのですかっていう声も聞いた。このように少しでも大きなところで学ばせたいっていう方もいらっしゃる。

統合反対の声は保護者よりも地域の皆さん、特にお年寄りに根強いものがあるのかなと思う。今後第三次計画を出すときに、小規模化が進む該当地域の要望など、その辺の話し合いがなされて教育委員会にも言っていたりしたら、また、変わってくる部分もあるかもしれないが、これまでのやり方からいくと、少しでも大人数の学校にという形にせざるをえないのかなという気もする。

#### 【市長】

今ほど教育長が言われた中で本当に大切なことがあると思う。今、年齢層的に見れば、少子化なので子育て世代も少ない。そういった意見が地区の取りまとめの時に少なくなってしまう。やはりそのおじいちゃんだったりおばあちゃんだったり、地域に根差した人の声が多くなってしまいうことは気をつけながら、学校の統廃合の話は進んでいかなければならない。子供たちやその保護者が一番の当事者になってくるのでその声をしっかり漏らさないようにして、その上で統廃合をしたといても地域に子供たちは住んでいるわけなのでその意味を地域の人たちに十分納得してもらおう。子供たちを地域で育てていく。そんなところも含めながら、第三次再編計画の統廃合の議論を進めていかなければならないというふうにする。

第三次実施計画の議論はいつ頃から始まるのか。

#### 【事務局】

令和9年度が第二次実施計画の最終年度になるので、その令和9年度に第三次実施計画の検討委員会をして立ち上げることになる。

#### 【市長】

第三次計画の検討は令和9年度からということなので、それまでまだまだ意見も交わせるし、また環境も変わってくると思う。地域の意見も変わってくるし、保護者の意見も変わってくると思うので、それを察知しながら進めていければと思っている。

他にご意見がないようですので、学校再編整備第二次実施計画の進捗状況についての意見交換は以上とさせていただきます。

### (2) 部活動の地域展開について

#### 【事務局】説明

##### ○背景について

- ・少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなってきました。学校や地域によっては存続が厳しい状況にあること。
- ・専門性や意思に関わらず、教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなること。

- ・学校と地域との連携・協働により、学校部活動の在り方に関し速やかに改革に取り組み、持続可能な活動環境を整備する必要があること。

○ガイドラインの方向性と目指す姿

- ・令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として、地域連携、地域移行に取り組みつつ、令和8年度以降、地域の実情に応じて可能な限り、早期の地域クラブ活動へ移行することが求められている。

○ガイドラインで示す学校部活動の適正な運営等の在り方

- ・部活動指導員や外部指導者の確保。
- ・地方公共団体等の役割として、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力のもと、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進めること。

○ガイドラインで示す学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方

- ・地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実
- ・地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備
- ・質の高い指導者の確保、意欲ある教師等の円滑な兼職・兼業

○総合型地域スポーツクラブの設立による課題解決

- ・中学校部活動、スポーツ少年団、それぞれが抱える課題解決とガイドラインが示す新たな地域クラブ活動の実現のため、スポーツの枠にとらわれない、文化活動や交流活動など、子供たちの多様な活動の受け皿となる総合型地域スポーツクラブを市主体で設立し、学校、地域との連携体制の構築を図ることを目指す。
- ・総合型地域スポーツクラブでは、市スポーツ協会等から推薦された外部指導員、兼職兼業の教職員を登録し、中学校部活動での指導を行う。
- ・さらに、団員、指導者の確保が困難になり、休止状態あるいは解散を検討せざるを得ないスポーツ少年団に対しては、総合型地域スポーツクラブが受け皿となって活動を支援することも検討を行う。
- ・また、総合型地域スポーツクラブ本来の、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）という特徴を生かし、新たなスポーツ、文化、交流活動を展開していくことができる。

ガイドラインのスケジュールどおり、令和8年度を目標に総合型地域スポーツクラブの設立を目指し、来年度には、設立準備作業、スポーツ協会など、関係団体との調整、外部指導員、兼職兼業職員の確保、部活動指導員の派遣の試行などに取り組むこととしている。

**【泉委員】**

一番大事なことは、質の高い指導者の確保だと思う。これさえ何とかクリアできればできそうな気がする。いかに指導者を確保するかということに尽きると思う。

**【成瀬委員】**

「総合型地域スポーツクラブ」というのも、もうひとつ理解が難しいので、時間をかけて見守っていきたいと思う。

**【市長】**

最低でも保護者や携わっている人には「総合型地域スポーツクラブ」はこのようなものだということが分かるようになれば、子供をそこに入れようかということになると思うので、その辺、分かりやすく保護者に説明できるように、こういう人に教えてもらうんですよというようなことが分かれば、「総合型地域スポーツクラブ」がひとり立ちできるのかなと思う。

**【成瀬委員】**

子供から高齢者までというこの「多世代」という言葉もあるので、今まで中学校の部活動という頭があったから、切り換えていろいろ考えていけないかなという気はしている。これはもう方向性が決まっているのか。

**【事務局】**

今回、中学校部活動の地域移行の外部指導員の受け皿として、総合型スポーツクラブを活用するという提案をさせていただいているが、その受け皿となる総合型地域スポーツクラブというのは、実はもう10何年前からある制度で、実は八幡浜にもすでに「楽スポGO」という生涯スポーツクラブがあるが、現在の「楽スポGO」は子供たちにボッチャやカローリングなどのあまり体験することがないスポーツの機会を提供していただいている。そういった形の総合型スポーツクラブもあるし、年齢の幅を広げて高齢者のクロッケーであるとか、そういった活動をしている総合型スポーツクラブもある。そういった多世代、多種目、そういった特徴を生かした活動を従来から行っているの、最近になって中学校部活動の地域移行の受け皿としてうまく対応できる組織ではないかというところで脚光を浴びている。

**【市長】**

フランスのボルドーで道上伯先生が柔道を指導されていたということで、一昨年ボルドーに行ってきた。実際に柔道場で指導もしてきた。同じ道場で時間帯によって小学生がいたり、中学生がいたり、大人がいたり、海外ではもうそういうふうになっている。そういうのが多世代に渡っての競技。それがまさにモデルではないかと思っている。

**【成瀬委員】**

実際のそういうクラブのモデルの話を聞いてなんとなくイメージがたった。ありがとうございます。

### 【佐々木委員】

教育委員会の先進地視察で、昨年度宗像市の地域移行を視察させていただいて、すごく勉強になった。今年度も地域移行をテーマに視察先の選定をお願いした。

テニスに関していえば、知り合いが硬式テニスを子供たちに教えていたが、途中から保護者の希望で軟式テニスを教えている。その辺、他の競技とかにもうまく広げていけたらいいのになという気持ちがある。

### 【教育長】

スポーツ協会に所属する各種目の代表者を集めた会は実際していない。市P連とスポーツ協会の幹部との会議までしかやっていない。今後は、先ほど泉委員が言われたように、子供たちにとっていい指導者を集めるという点で、この総合型地域スポーツクラブを作って、専門の事務局員を置いて、改めて指導に意欲のある教員や今その軟式テニスの情報があつたが、そういう情報をどんどん仕入れながら、こういう人たちが指導者としてできるのではないかというものをまず作っていきたい。実際、八代中にある剣道がもう教員には専門家がないので、協会の野村さんに部活動指導員になってもらっていて、川上の剣道会の人たちに助けてもらっているという状況である。あるいは、水泳はほとんどがスポーツセンターに行つて練習をしている。そういうところからもう始まっているのかなと思っている。

もう一つは今現実として、文化部の中の、名称は様々ではあるが、「創造部」とか「愛宕部」という名称の部活に、自分は他のスポーツをやるからその文化部にとりあえず入って、そして運動部には入りませんという子供もいるので、それについても考えていかななくては行けない。地域展開のスタートに合わせて、「全員部活動制」も見直す時期にきている。

### 【市長】

今の話を総合していくと、やはりその指導者が非常に重要・肝心だということを思った。総合型地域スポーツクラブに移行するために、いろんな競技で、やってもいいよという方、あるいはこれを経験したことがある方や教員のOBの方でも指導者を集めて、まずそこで協議をしてもらおう。そこから始まるのではないか。それを早い段階に立ち上げて、総合型地域スポーツクラブ指導者の会のようなものでよく練って、その中から、いろいろな人材を引き込めるように、あの人もある、ここにこんな人もいるから一緒に引き込めるように、そこができたなら立ち上げが早いような気がする。まずはそこから担当者も形作っていくのがいいのかなというような話なので、ぜひ情報交換しながら、指導者のピックアップ、そして話し合える環境づくり、そのようなものを手がけてもらえたらなと思う。

他にご意見がないようなので、部活動の地域展開についての意見交換は以上とさせていただきます。

## 6 その他

### 【市長】

○中学生の海外派遣について

先日、第6回ダルメイン World マーマレードアワード&フェスティバル in Japan の表彰式があり、その時に元在英日本国大使館特命全権大使の鶴岡さんと話をする機会があった。今は小学校から英語教育が始まるが、実際に海外の英語を聞く機会がなかなかない。日本語で使う発音と海外で使う発音は全然違う。子供たちの英語を聞き取る能力は中学校を卒業する頃には固まってしまうので、中学生のうちに海外で使う発音を聞いてそれを聞き取れる耳を開いておくことが必要だというようなことを言われていた。

できたら早いうちに、夏休みを利用して1、2週間ぐらい海外にホームステイなどをして本場の英語に触れさせてあげたいと思うが、皆さんのご意見を伺いたい。

### 【佐々木委員】

私は大賛成である。英語は学問ではなくコミュニケーションツールだと思う。英語しか通用しない社会で生活すれば、どうしても話さざるをえないので自然に自分も努力するだろうと思う。英語はどこへ行っても話せたら何とかなる言語だし、そういうのを経験するはすごく大事だと思う。

私も2週間ほど仕事でアメリカに行った経験があるがとても苦勞した。でも、そういう大変な思いの方がこの年になっても覚えているもので、楽な旅行だと忘れることも多いと思う。

短い期間でもいいきっかけになればいいかなと思う。きっかけづくりは大事である。

### 【成瀬委員】

私も大賛成である。今後、このダルメインのマーマレード大会に併せてイギリスに行くのがいいと思う。近隣にいろいろな国もあるので国際感覚も身につくし、そういうセレモニーの中で自分たちも現地の中学生たちとの交流という有意義な経験もできるので、八幡浜市の生徒にとってもすごく刺激的な経験ができると思う。なるべく参加の壁は低くして、誰もが行ってみたい、応募したいと思える環境づくりに努めていただきたい。

### 【國安委員】

私が中学生の時にホームステイ制度があって、かなり倍率が高くてみんなで取り合った記憶がある。残念ながら私は外れたが、すごくいい経験になったという話はいろいろ聞いているので羨ましいなと思った。

佐々木委員も言われたが、今後英語を話す・話さないは別として、いろんな知見があって、いい経験ができるのは非常にいいことだと思うし、やはり海外に行くというのは保護者の費用負担が結構厳しくて、そういった経験をさせてあげたくても海外旅行へ連れて行ってあげられないということがあると思う。そういったところで市のバックアップがあると、そういった経験ができなかった子供にもさせてあげることができると思うので、これは非常にいいことだと思う。

**【市長】**

イギリスは結構費用がかかる。ロンドンが高いが、ダルメインのあるカンブリア地方は自然が豊かで割と安く行けるのではないかと。ホームステイで手を挙げてもらうところもたくさんあると思う。現地にもライオンズクラブがあって、そういった方たちにこのダルメインのマーマレードアワードも協力してもらっている。そういった方を頼れば受け入れていただける家族はあると思う。

**【泉委員】**

私も大賛成である。英語に触れるというだけではなく、海外へ行くといろんなものが見られる。10日や2週間海外へ行ったからといって話せる・聞き取れるようにはならないけれど、向こうの人たちの生活を見るだけでも、ためになるのではないかと思う。

**【佐々木委員】**

最後に1点だけ。海外に行けば行くほど、日本のよさが再認識できていいと思う。

**【教育長】**

金額的なことさえなければ、やはりマーマレード繫がりで始まったということでイギリスは理想的ではあると思う。南予の市町を調べてみたら、行っているのがアメリカ、ドイツ、オーストラリアである。事務局内では、近場で考えたらフィリピンという英語圏もあるけれど、安全面などを考えたらシンガポールかなという話も出た。実施することになれば、金額面や安全面などその辺を考えながら視察地、ホームステイの場所が決まっていくのかなと思っている。

**【泉委員】**

八幡浜市は、海外に姉妹都市はないのか。

**【市長】**

海外も国内も姉妹都市はない。

今日皆様からいただいたご意見では賛成というようなことが多いので、来年、学校教育課の方からそういった予算要求が出ることを大いに期待したいなというふうに思っている。やはり子供の教育にお金をかけるというのは大事だと思うので、これは前向きに話していきたいと思う。様々な貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

その他意見がなければ、以上で本日の協議は終了させていただく。

今後とも教育行政の効果的な推進を図るため、教育委員会との連携を密にして考えていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

閉会